

内野手における下手投げの優位性について

-遊撃手の二塁送球に着目して-

水上 久和 (富山大学)

1. 目的

本研究では、現在、野球の指導現場においてあまり行われていない内野手への下手投げ（ノンステップスロー）の指導に着目し、内野手における下手投げの優位性を明確にすることで、今後、野球の指導者が内野手にも積極的に下手投げを指導するように促すことを目的とした。

2. 方法

一般的な内野手のスローイングとして行われる上手投げ（ステップスロー）と下手投げの比較を行うための実験を行った。今回の対象とするプレーは、内野手が下手投げをよく使うケースの一つとして挙げられる遊撃手の二塁送球に限定した。遊撃手がゴロを捕球してから送球し、そのボールを二塁手が捕球するまでの時間を測定することにした。

1) 被験者：T大学硬式野球部に所属する内野手6名（1名を除き遊撃手経験有）

2) 実験方法：今回、遊撃手の定位置は、二塁・三塁ベース間の塁線から8m後方（左翼手側）に下がったところとした。試技は、二塁ベースから三塁ベースに向けて測った10m地点、15m地点、20m地点（各地点±50cmの範囲を設けた）の3ヶ所で行い、それぞれの場所で下手投げと上手投げを5回ずつ行った。

3) 分析方法：被験者が腰よりも下に転がってくるボールを捕球し、二塁に送球するまでの様子をハイスピードカメラで撮影し、動画分析ソフト（otcv8）を使用して遊撃手が捕球してから二塁手が捕球するまでの時間を計測した。

3. 結果

被験者6人それぞれの5回の試技の平均タイムをまとめると以下の表の通りになった。

※単位は「秒」。

※小数点第4位を四捨五入。

※下手投げの方が速ければ「-」遅ければ「+」。

表1 実験結果（10m地点）

	被験者 A	被験者 B	被験者 C	被験者 D	被験者 E	被験者 F
下手投げ	0.940	1.034	1.190	0.974	1.014	0.976
上手投げ	1.298	1.222	1.540	1.124	1.068	1.098
比較	-0.358	-0.188	-0.350	-0.150	-0.054	-0.122

表2 実験結果（15m地点）

	被験者 A	被験者 B	被験者 C	被験者 D	被験者 E	被験者 F
下手投げ	1.124	1.168	1.296	1.194	1.138	1.148
上手投げ	1.360	1.304	1.540	1.346	1.268	1.204
比較	-0.244	-0.136	-0.244	-0.152	-0.130	-0.056

表3 実験結果（20m地点）

	被験者 A	被験者 B	被験者 C	被験者 D	被験者 E	被験者 F
下手投げ	1.224	1.316	1.440	1.278	1.300	1.308
上手投げ	1.426	1.462	1.698	1.452	1.410	1.386
比較	-0.202	-0.146	-0.258	-0.174	-0.110	-0.078

以上より、3地点全てにおいて被験者6人全員が下手投げの方が速かった。また、6人の下手投げと上手投げのタイムそれぞれの平均を比較すると、全ての地点において0.15秒以上下手投げの方が速かった。

4. 結論

今回の実験において、内野手の下手投げの優位性は十分に証明できた。この優位性を多くの野球の指導現場へと広めていくべきだと考える。

本研究では、下手投げの優位性を証明することまでに留まったが、今後の課題は、下手投げに取り組むことによる怪我のリスクを考慮しながら、具体的な練習方法を考えていくことである。